

インダストリー4.0について

➤ 概要

- ・ドイツ政府が産官学が一体となって進める、製造業の高度化を目指すプロジェクト
- ・インダストリー4.0には「第4次産業革命」という意味が込められており、「IoTによるさらなる効率化」と定義

第1次産業革命：「蒸気機関による機械化（18世紀後半）」

第2次産業革命：「電力の活用（20世紀初頭）」

第3次産業革命：「コンピュータによる自動化（1980年代以降）」

➤ 経緯

- ・少子高齢化による労働人口の減少や、原発の停止等に起因する国内立地環境の悪化
- ・ドイツ国内でGDPの約25%、輸出額の約60%を占める製造業の存在感が低下



- ・2011年11月、独政府は**独製造業の競争力強化のための構想**である「インダストリー4.0」を提示（所管：連邦教育研究省、連邦経済エネルギー省）

➤ 実施主体

ドイツ機械工業連盟、ドイツ情報技術・通信・ニューメディア産業連合会、ドイツ電気電子工業連盟を事務局とする、産学連携プラットフォーム

➤ 国内における取組（2015.6.17 日本経済新聞）

6月18日に法政大学の西岡靖之教授が旗振り役となり、三菱電機など約30社がコンソーシアムを結成し、工場をつなぐ技術の標準化を話し合い、国際規格化も目指す。

- ・コンソーシアム名：インダストリアル・バリューチェーン・イニシアチブ（IVI）
- ・参加企業：三菱電機、富士通、日産自動車、パナソニックなど電機、情報、機械、自動車の主要企業の約30社
- ・目指す方向：日本企業の従来の自社や系列内をつなぐネットワーク化から、系列や業種を超え、中小企業も含めてネットで連携する仕組を築く。

■IoT（Internet of Things：モノのインターネット）とは

- ・電化製品、自動車、医療機器など、パソコンやサーバーといったコンピュータ以外の多種多様な「モノ」がインターネットに接続され、相互に情報をやり取りすること。
- ・様々な企業や業種においてIoTによる生産性や品質の向上が期待されている。
- ・米国調査会社（ガートナー社）は、IoTによる2020年の経済価値を1兆9000億ドルに及ぶと予測している。